横俵遺跡群 II

1992

前橋市教育委員会

荒砥工業団地の造成に先立ち行われている横俵遺跡群の発掘調査は平成３年度で第４年次をむかえました。

発掘調査が進むにしたがい、大道遺跡・上横俵遺跡・熊の穴遺跡などから数多くの住居跡や古墳が発見されています。

中でも平成２年度に調査された上横俵遺跡と熊の穴遺跡からは「上毛古墳総覧」（昭和10年に県下いっせいに行われた古墳の調査をまとめた本）にのっていない古墳が数多く発見され大変貴重な資料を得ることができました。

この写真集は平成２年度に行われた上横俵遺跡並びに熊の穴遺跡での調査の成果をまとめたものです。

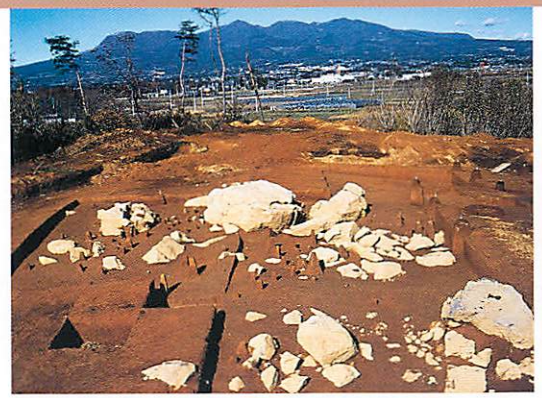
旧石器時代の調査（今から12000年以上前）

巨石と旧石器

熊の穴遺跡の丘の頂上から赤城山方面を写したものです。

この丘の頂上には以前から大きな石があったことが知られていました。調査の結果、この巨石の回りには今から2万年以上前の旧石器時代の遺跡があることが分かりました。

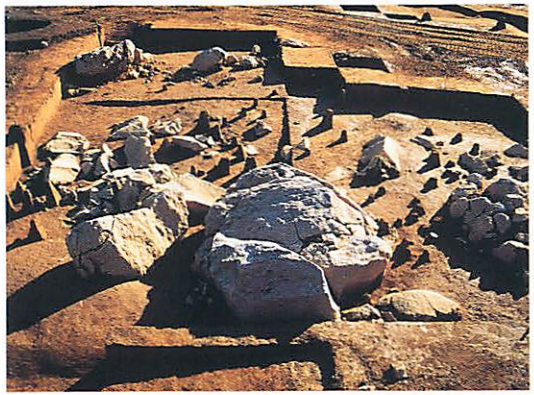
市内で旧石器時代の遺跡が確認された例は数えるほどしかなく、大変貴重な発見となりました。



岩陰の遺跡

丘の上から南に向けて旧石器時代の遺跡を写したものです。

調査区の中に小さい土の柱のようなものが残されていますが、その場所から旧石器が発見されました。旧石器のほとんどは大石を背にした南側で見つかっており、当時の人々はすでに日当たり・風向きなどの自然条件を知りつくして住まいを選んでいたことが分かります。



発見された石器

旧石器は全部で 128点発見されました。ほとんどが石器を作るときのカケラでしたが、ナイフ形石器（動物の解体等に使用）が10点、キリ形石器（毛皮などに穴をあける道具）が1点の外、使用されたと思われる石器も8点見つかりました。

発見された所の土を調べた結果、古いものでは、今から約2万1千年以上も前のものであることが分かりました。

縄文時代の調査（今から12000年～2300年前）

縄文時代の土器の出土

旧石器が発見された丘の東から南にかけての斜面からは、数え切れないほど多くの縄文時代の土器片や石器・石器片が見つかりました。

けれども、住居の跡は2軒しか発見されず、なぜ大量の土器や石器が丘の斜面から見つかるのか興味深い発見となりました。

（土器や石器が発見される地層のことを遺物包含層と言います。）

狩りのための落とし穴

動物を落とすために掘られた縄文時代の落とし穴を上から写したものです。長径が約3m、短径が約 1.8mの小判形をしており、深さは約 1.4mありました。底にある小さな三つの穴は、逆木（落とし穴の底に埋め込まれた先がとがった杭のような木で、動物が落ちたときに傷を負わせたり、穴から外へ出ようと助走するのを防いだりするためのもの）を埋め込んだ跡の穴です。逆木（さかもぎ）

熊の穴遺跡からは20基以上発見されています。　（熊の穴遺跡）

縄文時代の土器と石器

神沢川の西にある大道遺跡では、縄文時代の大規模なムラが発見されていますが、そのムラとは時期の異なるムラが上横俵遺跡や熊の穴遺跡で見つかりました。手前の石器三点は、磨製石斧と呼ばれるもので、建築用の道具と考えられています。中央の大きな打製石斧は住居や落とし穴などを掘るための土木用具と考えられています。土器は煮炊きや貯蔵のために使われていたものと思われます。

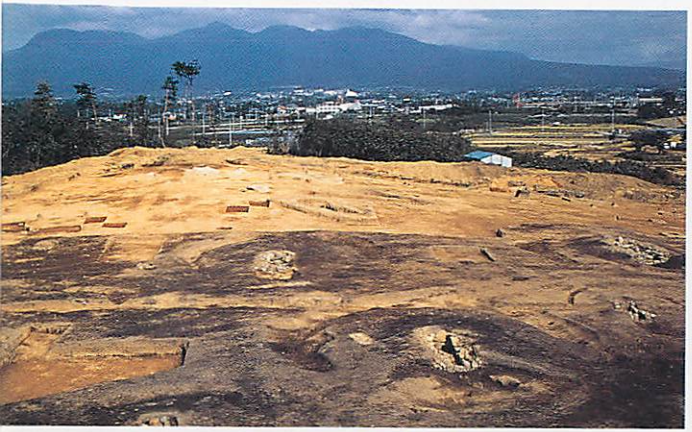
（上横俵遺跡）

古墳時代の調査（今から1700年～1300年前）

熊の穴遺跡の古墳群

丘の頂上部には旧石器時代の遺跡、中腹部には縄文時代の遺跡、ふもとには古墳時代の古墳群が発見されました。

古墳は、大小合わせて13基調査されました。



熊の穴遺跡10号墳

墳丘の直径が約11ｍの小さな円墳で天井石や石室内の副葬品はすでに取り去られており、ありませんでした。赤城山の自然石をほとんどそのまま利用して石室を作っています。

熊の穴遺跡４号墳

古墳群が作られたころには、すでにこの地域にも長さを測る尺度（ものさし）が入っていたらしく、墳丘や石室の大きさに一定の規格が見られます。

上横俵遺跡の古墳群

６基の古墳が調査されているのが分かるでしょうか。

これから調査される古墳が、大きな円墳の上と青い屋根の上に写っています。

上横俵遺跡４号墳と８号墳

４号墳は直径が約26ｍの円墳でした。大きな天井石が石室の中に落ちていたため、ほうむられた人とともに納められた副葬品はそのままの状態で見つかりました。

上横俵遺跡13号墳

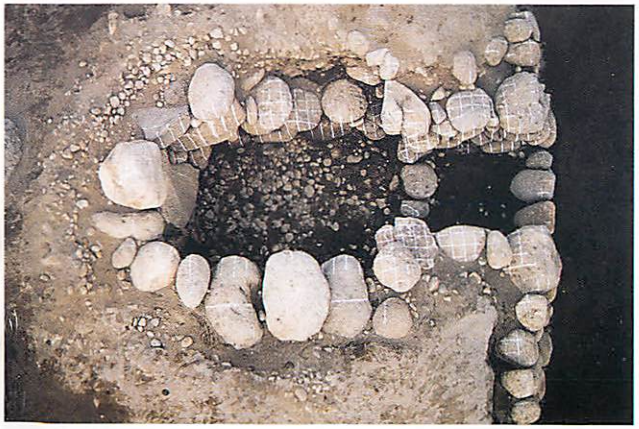
古墳群の中で最も大きく、墳丘の直径は約30ｍありました。石室の前はコの字形の石垣状にきれいに作られており ほうむられた人をまつるための広場になっていました。

小さな古墳ができるまで（調査の逆の順で想像復原してみました）

① なだらかな丘の南から東斜面を選ぶ。
30㎝を一尺としたものさしで墳丘や石室の大きさを設計する。（35㎝を１尺とするはかり方もあった）
南が正面になるように馬のひづめ形に穴を掘る。

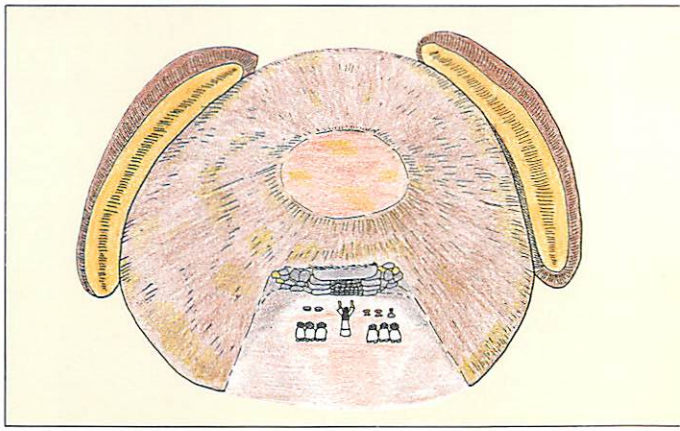
② 中央部を少し高くして穴の底をつきかためる。
設計のとおりに第１石を並べる。一番奥には大きな石を置く。
石室への通り道や石室の床に小石を敷きつめる。

③ 安定するように石と石の間に小石を入れながら石室の内側がそろうように第２石、第３石と積み上げる。
この作業と同時に裏込め（石室の外側がくずれないように土や石を入れること）をする。



④ 天井石を乗せるために一番上の石の高さをそろえる。
石室入り口部分の石をきれいに積み上げる。
この古墳では赤城山の石と利根川でひろえる榛名火山の軽石（だえん形）の両方の石材を使っています。

⑤ 天井石を乗せる。（この古墳の天井石は取り去られていてありませんでした。）
最初に掘った穴の土を石室にかぶせる。
設計どおりに墳丘の回りに堀を掘る。

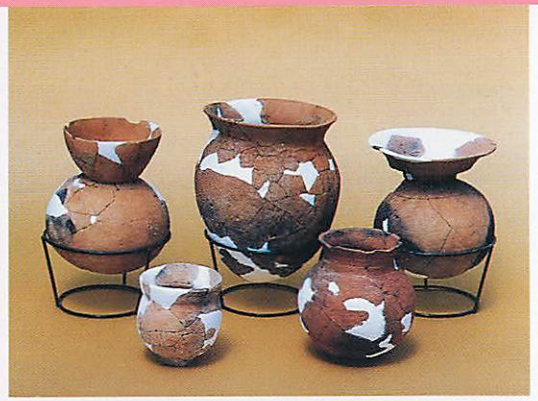


⑥ 堀の土を内側に盛り上げ墳丘をきれいに仕上げる。
前庭（ぜんてい）（死者をまつるための石室前の広場）をきれいに仕上げる。
死者と副葬品を石室に入れ、入口部を石でふさぐ。

埴輪と土器

人物の埴輪

上横俵古墳群5号墳で発見されました。首から下の部分は残念ながらありませんでしたが、頭部は良く残っていて髪の毛の形や表情が良く分かります。左手の形や全体の様子から剣をもっている男子の像と思われます。



古墳に置かれた土器

上横俵古墳群の中で一番古い古墳（周溝墓＝回りに堀を掘るが内側へは土を盛り上げない形の墓）と思われる8号墳から発見された土師器（素焼きの土器）です。後列の左右の土器の底には焼き上げる前に開けられた丸い穴があります。このような土器が発見される古墳は古い時期の古墳と考えられています。

馬の埴輪

同じく5号墳から発見されました。鼻から尾までの長さは約80cmあります。背中には鞍、口の部分には手綱やくつわ（馬の口につけ手綱をつけるための道具）が表現されています。また尾部には鈴がつけられています。

石室の中に置かれた土器(1)

上横俵遺跡の古墳から発見された須恵器（ろくろで作られ登窯で千度以上の温度で焼かれた灰色の硬い土器）です。須恵器の焼き方は日本独特のものではなく、朝鮮からの渡来人によってもたらされたもので、土師器しか知らなかった人々にとって貴重な品物であったらしく、古墳の副葬品として広く使われました。

円筒埴輪

人物埴輪や馬の埴輪は姿を形どって作られているので形象埴輪と呼ばれています。それに対し墳丘の周囲に並べられた筒の形をした埴輪は円筒埴輪と呼ばれています。

現在の世界と死者の住む世界を区別するための境界として並べられたものと考えられています。

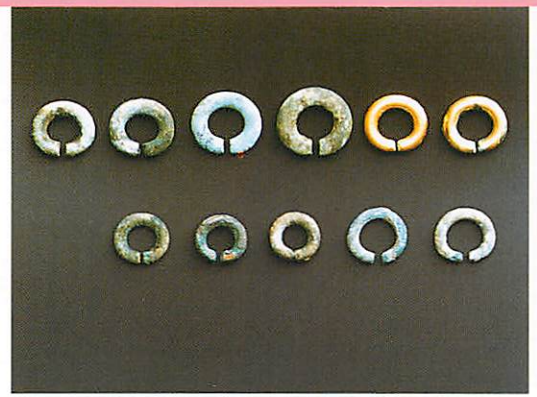
石室の中に置かれた土器(2)

2の横瓶（水筒）以外はすべて上横俵遺跡4号墳の石室内から発見された副葬品の須恵器です。7は筒坏（そなえ物を乗せる土器）1．3．6は提瓶（けいたい用の水筒）4は平瓶（水差し）5は長頸壺（水差し）と言われるものです。死後の世界でも水や食料に困らないようにと願って置かれたのかも知れません。

副葬品（ほうむられた人と一緒に置かれた品々）

金環（耳環）

上横俵遺跡4号墳から3対（6個＝写真の上段）11号墳から1対（2個）13号墳から2対（4個）発見されました。1人に1対と考えるとほうむられた人の数が想像できます。4号墳は盗掘（墓どろぼう）にあわなかったので時間的な差はありますが、3人ほうむられたものと思われます。



勾玉とガラス玉

上横俵遺跡の4号墳からは金環・切子玉・ビーズ玉などの副葬品がたくさん見つかっています。めのうで作られた6個の勾玉や30個のガラス玉も同じく4号墳から見つかったものです。勾玉は日本にしかない形の玉で、その歴史は古く、縄文時代にまでさかのぼります。ガラス玉と組ませて想像復原してみました。

切子玉とビーズ玉

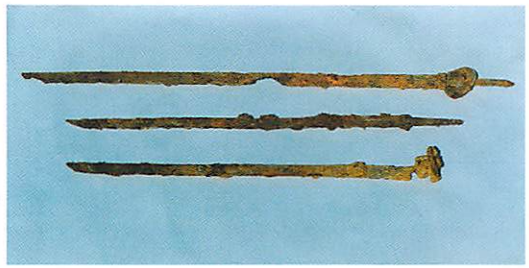
切子玉とは普通六角すいを二つ合わせて両方の先を切り、穴を開けた主に水晶を材料とした玉のことで、首飾りとして利用されました。ガラスがすでにこの地域まで伝わっていたことや、それらに穴を開ける難しい技術ももっていたことが分かります。ビーズ玉と組ませて想像復原してみました。（上横俵4号墳）

ビーズ玉

上横俵遺跡の13号墳から発見されました。天井石はすでに取り去られ石室内も盗掘にあっていて小さくて取り残されたビーズ玉とさびたたくさんの鉄のやじり・金環2対が残されていただけで副葬品はほとんどありませんでした。コバルトブルーのガラスで作られており、首飾りとして使われていたものと思われます。

太刀（直刀）

上横俵遺跡の古墳群からは4号墳で2振（写真上の2本）11号墳で1振（写真一番下）の太刀（鉄製の真っすぐな刀）が見つかりました。一番長いもので刃先が約90cm、ほかのものは刃先が約70cmほどありました。長い太刀にはつばがついており、X線撮影の結果銀で飾りのもようがつけられていることが分かりました。

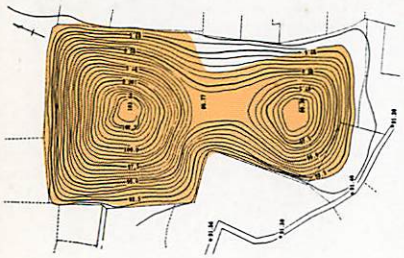


副葬品の発見

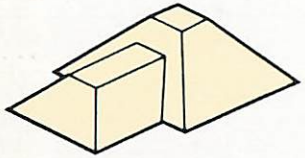
4号墳の石室内部東側の様子で、太刀とその先に馬具（くつわ）その右に須恵器の高坏またその右に提瓶（水筒）太刀の右にも提瓶があるのが分かります。右上に写っている大きな石は天井石で、この石が落ちていたために盗掘に会わずにすんだものと思われます。この石の北側から玉類・金環が見つかりました。

古墳の形いろいろ （この図からは大きさの比較はできません）

前方後方墳



八幡山古墳



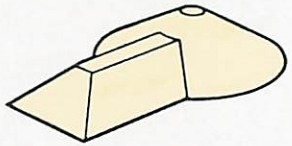
四角と四角を組み合わせた形の古墳。

市内にある古墳の中でも古墳が作られ始めたころの古い古墳と考えられます。

八幡山古墳（朝倉町）㊀

前方後円墳

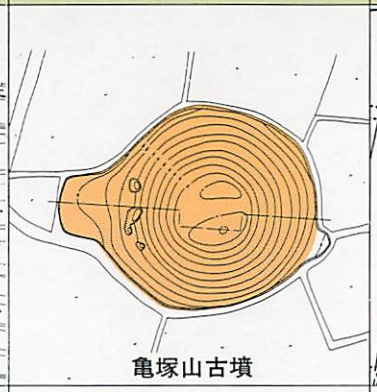
前二子古墳



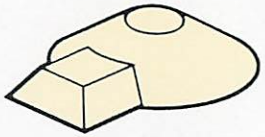
四角と円形を組み合わせた形の古墳。その地域における豪族の長の墓とする説が強い古墳です。

天川二子山古墳（文 京 町）㊀
総社二子山古墳（総 社 町）㊀
前二子古墳　（西大室町）㊀
中二子古墳　（西大室町）㊀
後二子古墳　（西大室町）㊀

帆立貝式古墳



亀塚山古墳



円形の墳丘に小さな四角形の張り出しをつけた形の古墳。

亀塚山古墳　（山 王 町）㊁
内堀M－1号墳（西大室町）

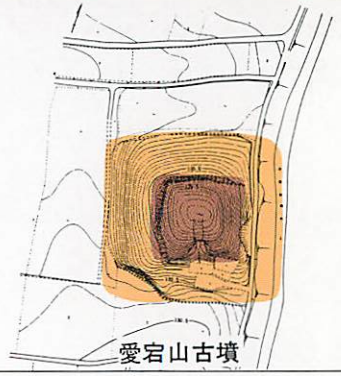
円　墳

新田塚古墳

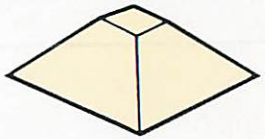
大きさは数十mのものから数mのものまでとさまざまで市内に 750基以上あったとされる古墳のほとんどは円墳でした。

新田塚古墳　（上泉町）㊁
塩原塚古墳　（田口町）㊁
経塚古墳　（東善町）㊁

方　墳



愛宕山古墳



平面が四角形でピラミッドのような形をしている古墳です。古墳時代の後期から終末期につくられました。

宝塔山古墳　（総社町）㊀
蛇穴山古墳　（総社町）㊀
愛宕山古墳　（総社町）

㊀ 国指定史跡　㊁市指定史跡

横俵遺跡群 II 1992
前橋市教育委員会　1992.12.25